

科目名		暮らしと法律（日本国憲法）				担当者名	望月 誠
		選択					
ナンバリング	26S11A03	授業の種類	講 義	単位数	2	開講時期	1年前期
授 業 内 容	本講義では、社会秩序を規定する規範体系のうち、公共圏における強制的規律たる「法」に着目する。とりわけ、実定法秩序の最高法規である日本国憲法の構造的理解を基盤とし、現代社会の諸課題に対して法的思考を適用・止揚させ、自律的な問題解決能力を涵養することを目的とする。						
到 達 目 標	私たちの生活と法律の関わりについて、基礎的な事項を理解し、法的思考力と主体的・自律的問題解決能力を身につけること。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について、法律とルール（決まり）、憲法の違いについて考える					
	2	大日本帝国憲法と日本国憲法の違いについて考える					
	3	日本国憲法の三大原則①国民主権					
	4	日本国憲法の三大原則②平和主義					
	5	日本国憲法の三大原則③基本的人権の尊重					
	6	基本的人権の尊重①自由権（3つの自由について考える）					
	7	基本的人権の尊重②平等権（法の下での平等について考える）					
	8	基本的人権の尊重③社会権（健康で文化的な最低限度の生活について考える）					
	9	身近な法律―契約とは何か（雇用を通して考える）					
	10	身近な法律―過失と不法行為について考える					
	11	身近な法律―結婚・出産・家族					
	12	身近な法律―刑法（犯罪）について考える					
	13	裁判（起訴・提訴）について考える					
	14	法哲学の世界					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準				割合
		筆記試験	問題の正答率				60%
		課題・提出物	問題の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				20%
		授業参加態度	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する				20%
教科書		授業ごとテーマに沿った資料を配布する					
参考図書		大谷實編著『エッセンシャル法学』（成文堂 2025年）、瀧川裕英『問いかける法哲学』（法律文化社 2016年）、大村敦志『父と娘の法入門』（岩波書店 2005年）、小貫篤『法は君のためにある』（ちくま書房 2021年）など					
準備学習		必要に応じて事前学習や資料収集を指示する					
課題等に対するフィードバック方法		添削して返却し、返却時には講評・解説を行う					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間					
その他 留意事項							
実務経験と資格等		Summit Academy 長聖小学校および長聖中等教育学校 教頭、教育学修士、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状(社会)、高等学校教諭専修免許状(地歴公民)、自治体・高等教育機関との社会活動(嘱託)多数、歴史学・社会科学分野の所属学会等多数、地域社会に関する学会発表・論文・共著等多数。					